

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079700201		
法人名	医療法人 上野病院		
事業所名	グループホーム あがの		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福知町上野 2678-1 (電話) 0947-28-6650		
評価機関名	株式会社アトル ソリューション部介護支援システムグループ		
所在地	福岡県福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成19年6月22日	評価確定日	平成19年8月6日

## 【情報提供票より】(19年 6月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	7 人 常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	木造り	
	1 階建ての 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1000円

### (4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護 1	7 名	要介護 2	1 名
要介護 3	7 名	要介護 4	2 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 67 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人上野病院 医療法人すみれクリニック
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院で老年期の認知症の方の治療方法がなくなり自宅に返すことが不可能なお年寄りのためにゆっくりと出来るような普通の暮らしを求めて、施設長はホームを設立された。経営母体は病院であるため、利用者及び家族ともに安心して過ごせるホームとなっている。玄関を入ると開放感あふれる空間が作られており木のぬくもりが伝わる家族的な雰囲気である。ホーム内は、身体状況の変化にも柔軟に対応できるように設計されている。事業者と利用者という関係ではなく、自分の親という思いをもって、施設長・管理者・職員一丸となってケアを行っている。外部評価を終え、帰る際、利用者の方も一緒になって見送られた。その光景が何ともいえない、暖かみがある家庭的な印象であった。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は外部評価の結果を共有し、その重要性を捉えて改善に向け取り組んでいる。改善に向けて検討された内容を周知徹底の為に改善計画シートを作成を期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の実施には職員全員で取り組み、外部評価の結果を踏まえサービスの改善に取り組んでいくことを全職員で確認している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は三ヶ月に一回開催されているが、メンバーに地域住民の方々の参加がない。内容に関しても地域の方々からご意見を頂いたり、今回の自己評価や外部評価の改善の内容等の報告をしたりと、今後は二ヶ月に一回位のペースで開催し地域に開かれたサービスの質の確保を図っていくことに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族が来訪された時に近況報告に合わせて要望や苦情を聞くようにしている。また、利用者の日々の様子や誕生会での写真等をホーム便りに掲載し家族の方に配布されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民として、老人会の寄り合いに参加したり、小学校の運動会や卒業式に積極的に参加している。小学校から生徒の訪問があり利用者の方と一緒にレクリエーションを行ったり、ホームの夏祭りに地域の方に来てもらい地域に溶け込んでいる様子が伺える。

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1.理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	地域密着型サービスの役割を理解し、これまでの理念の見直しをおこなった。生きることを支援します 家族や地域社会の関係の継続を大切にします 私達も地域住民の一員として地域に溶け込み、その役割を果たしますということを基本に地域を意識した独自の理念である。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝礼時に読み合わせを行い共有されており 職員一人ひとりが常に意識して日々の具体的なケアの中で取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として老人会の寄り合いに参加したり、小学校の運動会や卒業式に参加している。また、小学校から生徒の訪問があり、入居者の方と一緒にレクレーション等を行ったりと地域との交流がある。ホームの夏祭りや行事毎に地域住民へ参加の呼びかけを行っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、自己評価は管理者や職員がともに話し合っており、外部評価の結果も共有し具体的に解決できることから前向きに取り組んでいる。		外部評価の結果を踏まえ、管理者や職員で話し合い改善に向けて検討されているが、内容を周知徹底の為に改善計画シートの作成を期待したい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は三ヶ月に一回開催されている。メンバーとして市町村、利用者の家族、利用者代表、施設長、管理者、介護支援専門員である。議題としては、ホームの状況報告や情報収集のみである。また、地域住民の参加がない。		運営推進会議は、外部の人の目を通して、事業所の取り組みや具体的な課題を話し合い、地域の理解と協力を得る為の機会であり、地域住民(老人クラブ・民生委員)の方々に参加してもらえよう働きかけていくことが望まれる。また、今後は二ヶ月に一回位のペースで開催し地域に開かれたサービスの質の確保を図っていくことに期待したい。

グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市町村の方へ出席してもらいホームの状況を伝えたり、社協の勉強会に積極的に参加されている。		市町村担当者とともに課題解決を図っていく取り組み必要となり、運営推進会議の参加のみならず、市町村の窓口におもむきホーム便りや行事案内を届けるなどして関係づくりを積極的に行われることが期待される。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度等必要なケースでは管理者が対応しているが全職員が理解説明出来るような体制が整っていない。		対応が必要と思われる利用者がある場合は、管理者が一人に対応するのではなく、職員の方も理解し説明出来る体制が必要となり、職員全員が研修を受け、いつでも情報提供や支援出来るような取り組みに期待する。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者一人ひとりの暮らしぶり等を話されている。また、ホーム便りを作成し家族に送付している。金銭管理についても使った分を出納帳に記入し家族の方に報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し、苦情相談受付用紙を準備している。また、家族に請求書と一緒に意見用紙を添えて送付している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在の所職員の異動はないが必要最小限に抑える努力をしている。利用者、ご家族の信頼関係を築くためにも馴染みの職員が継続的に対応出来るよう努められている。		

グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては性別や年齢は関係なく、介護に対する熱意や姿勢を重視している。また、管理者は職員のケアでの得意な分野を伸ばしていけるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者が研修に参加しその内容を職員に報告している。</p>		<p>今後は定期的な研修をしていくことも必要ではないだろうか。</p>
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は職員に対し研修を受けるよう勤めており、ミーティングで研修の案内を行っている。なるべく希望を優先させた上で勤務を組むようなバックアップ体制もとっている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>サービスの質の向上のために、関連の事業所や他の事業所との学習会・情報交換を行ったりと交流に取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族と一緒にホームに来てもらったり見学や体験入所しながら馴染めるよう工夫を行っている。</p>		

グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	利用者とコミュニケーションを取りながら出来ることは一緒にいき、お互い協同の気持ちで声をかけている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望の把握を行っている。言葉や表情などから真意を測る努力も行っている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	朝のミーティングで職員の意見を聞いてみんなで話し合いをしている。話しがまとまらない時は再度検討している。また、センター方式を取り入れて行っている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎に会議を開き、職員から利用者の情報を入手したり家族からの意見を聞いたり支援経過記録をもとに見直しを行っている。		

グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を行ったり 買い物や外出など柔軟に対応している。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関および利用者家族の希望するかかりつけ医での受診をしてもらっている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族、かかりつけ医や協力医療機関等との話し合いの場をもち、スタッフ全員で対応方針の共有を図っている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを傷つけないように気をつけて言葉かけを行っている。また、個人情報保護についてよく理解しており 情報の漏洩防止に努めている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自由に自分のペースで生活できるように職員が工夫して対応している。		

グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者との間に入り一緒に食事をしている光景が和やかな雰囲気であった。食べこぼし等についてもさりげなくサポートしている。また、片付け等も利用者と共に進められている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に合わせて時間帯も昼から夜までとゆとりを持って行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗いや調理の手伝い(野菜を切る、食器拭き)、洗濯たたみや掃除等利用者の力量に応じて役割を持ってもらえるような場面作りの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて買い物や散歩に出掛けている。また、玄関先や庭にイスやテーブルを置き自由に過ごさせて日光浴を楽しむことができる。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間より早朝までに行っているが、その他の時間帯は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災マニュアルを作成したり年二・三回防火訓練を行ったり夜間想定訓練も行っている。また、業者に来てもらい消火器の使い方などの訓練を行っている。		

グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の管理栄養士が立てている献立なのでカロリー計算や栄養バランスは取れている。時にはその日の材料をアレンジして作っている。また、水分量や食事摂取量等の記録をとり把握している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、食堂などの共用空間には季節の花、利用者が作成したちぎし絵が飾られ、家庭的な雰囲気を作り出している。また、室内の温度、光、音は快適な状態に保たれ居心地よく過ごせる環境となっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく自分らしい生活をするように使い慣れた生活用品や家具、馴染みのものを持ち込む事を自由にしており、その人らしく過ごせる部屋づくりになっている。		